

(別紙1)

自己評価及び外部評価結果
作成日

平成24年 10月 10日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2796300156		
法人名	社会福祉法人森の子ども		
事業所名	グループホーム ソフィア		
サービス種類	グループホーム		
所在地	大阪府堺市西区鳳北町7丁3番		
自己評価作成日	平成24年 9月 2日	評価結果市町村受理日	平成24年11月13日

【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	(基本情報リンク先URLを記入)
情報提供票を活用する場合	(別添情報提供票のとおり)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 カロア
所在地	大阪府泉佐野市泉ヶ丘4-4-33
訪問調査日	平成24年9月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>食事に関しては、3食とも当ホームで調理し提供しています。利用者様と一緒に調理、味見、盛り付けを行い調味料の買出しや日用品の買い物など家庭的な雰囲気の中で生活すること支援しています。また月に一度の食事レクを行い食べたい物をリクエストして頂き目の前で調理し提供しています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>JR阪和線鳳駅から徒歩10分程度の場所にあるホームは、大通りに面しており、近くには大きなスーパーがある賑やかな立地にあります。ホーム内は居室が2階3階にあり、共用スペースからベランダへの出入りは自由で、大きな窓からは日光が差し込みとても明るい開放的な空間になっています。また、各階にはペットの犬と熱帯魚が飼育され、利用者もお世話を大切にしてあります。長年勤務している職員が多く、利用者個々の特性や希望を把握し、家庭菜園をしたり、1階フロアで運動をしたり、また希望に合わせた外出支援をしたりと、その人らしい生活が送れるように支援されています。毎日の食事においても、利用者と職員と一緒に食材を切ったり皮をむいたり、配膳下膳をしたりと利用者と職員が寄り添いながら、楽しく生活が送れるように支援されています。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲げて共有し実践につなげています。	各階の詰所に理念が掲示され、職員全員で共有及び実践に繋げるよう努力されています。	認知症ケアのノウハウを地域に向けて発信するという事業所の目的が実践され、地域交流が深まることを期待します。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事の参加のみで、日常的な交流はない。	地域の行事に参加し地域の方と挨拶を交わしたりしています。また、地域の方と相互に行事の案内が出されています。	ふれあい喫茶の再会及び運営推進会議に参加されている自治会の方との相互の行事案内を皮切りに地域交流が深まることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談に来られた方のみで活動はしていません。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの運営報告を行い、参加者の皆様からご意見を頂きサービス向上に生かしている。	ホームでの出来事や研修等の報告を行ったり、自治会行事を教えるなど意見交換の場としています。	さらに新しい家族様の参加を促し、サービス向上についての意見交換を行ってはいかがでしょうか。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	連絡を取り協力関係を築いています。	市町村担当者と常に交流を図り、利用者のサービスの向上に努めています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	外部講師を招き研修を行う予定。エレベータは施錠しているが利用者が出たいときには解除し付き添うようにしている。	ホームが大通りに面している為、エレベーターは常に施錠がされています。ただ、各フロアの窓やベランダの出入り口は開放され、また利用者の要望にあわせた外出支援を行うなど、出来る限り自由な暮らしが出来るよう支援されています。	職員身体拘束に関する理解をより一層深め、職員の見守り体制づくりや、少しの時間からでも鍵をかけない時間を作るなど、鍵をかけないケアの工夫がされてはいかがでしょうか。
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を行う予定。エレベータは施錠されているが、利用者様が出たい時には、すぐ解除して付き添うようにしている。		

8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後研修を受ける予定。		
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に時間を取って説明している。		
10	6 ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時家族様との会話から意見・要望を聞き運営に反映している。意見箱も設置している。	家族の面会が多くあり、その都度近況報告し信頼関係を築き、何でも相談できるような雰囲気作りがされています。	
11	7 ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている	職員会議の場で意見を聞いて合意の上提案し反映させている。	毎月の職員会議を開催し、職員が積極的に意見が言える機軸作りがされています。また日頃から職員間でも話し合いを持ち、ケアの質の向上に努めています。	
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に個別面接をし本人の状態を把握している。また職場環境について整備を進めている。		
13	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内研修をしている。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	区内の管理者が毎月1回集まり交流する機会を設けている。		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前に面談させて頂き不安なことや要望を伺っている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前に面談させて頂き不安なことや要望を伺っている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	先方の意見を伺った上で他のサービスの週類と特徴を分かりやすく説明している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできることを見極め共に支え合う関係を築いているスタッフだけで決めず利用者様からも意見を聞いている。	
19		○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	負担にならない程度に行事などをとおして家族様に支援頂いている。	
20	8	○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の面会や友人の面会も増え関係が途切れないよう努めている。	家族や友人との外出・外泊また友人をホームに招いたり、楽しい時間が過ごせるよう支援されています。また、お墓参り等馴染みの場所への外出支援もされています。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	話が合う利用者同士で気軽に話せるようスタッフが手伝っている	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談があれば積極的に支援に努めるようにしている。	

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様・家族様からの意見をケアプランに反映させている。本人の立場になって暮らし方を考えている。	日頃から利用者1人1人との関わりを大切にし思いや意向の把握に努め、家族とも相談しサービスに繋げています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	入居後も本人・家族様から伺い把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフ全員が介護日誌により総合的に把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議で別ユニットのスタッフにも意見を聞き作成している。	本人・家族はもちろん多くの職員の意見を聞き、介護計画を作成しています。又その後のモニタリング、見直しもされています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランのモニタリングを毎日記入しチェックしている。朝礼で情報を共有し介護を見直したり会議にて計画を見直すようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様・家族様の要望に可能な限り応えるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源や情報は常に最新のものを把握し支援するようにしている。		

30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関との関係を築いており。毎週火曜日、主治医が往診に来られている。	基本的には毎週火曜日に協力医院の往診があります。ただ、本人や家族の希望があれば家族同行でかかりつけ医への通院が可能です。通院介助も状況に応じて行っています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	訪問看護師と連携して医療の支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際、安心して治療できるように介護サマリーの提出と早期退院出来るように介護支援専門員との相談・連絡に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に指針を説明している。	重度化にともなう看取りケアはおこなっていませんが対応し得る最大のケアについて説明しています。	今後さらに重度化が予測されます。研修等で知識を高め、対応を検討してみたいかがでしょうか。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム内研修で基本を身につけているがあらゆる実践に対応は困難である。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回火災を想定した非難訓練のみで地域との協力体制は不十分である。	消防署が立会いのもと、年2回避難訓練を実施しています。また、現在自治会の防災訓練への参加の要請を行っています。	災害に備えた備品の準備や、地域住民との協力体制構築に期待します。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフ全員に 人格の尊重・プライバシーの確保 は徹底させている。	利用者の気持ちを大切にした自己決定がしやすい言葉がけに努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	あらゆる場面（食事、飲み物、入浴、行事参加、買い物）で 選択肢を提供し自己決定を支援 している。		
38	15	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課を 殆んど決めず、その人のペースに合わせて1日を過ご していただいている。	生活の中で以前から楽しまれていた趣味や習い事が継続できるように支援しています。ホーム内での家庭菜園、運動の為の散歩等利用者の希望に添った支援がされています。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣料品や化粧品の 買い物は日常的に支援 している。		
40	16	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と 一緒に調理・盛り付け・後片付け している。	毎日の食事作りや片付け等に、利用者が笑顔で積極的に参加されています。また、月に1度食事レクがあり利用者が献立を考える機会があります。	食事を 楽しむ雰囲気 づくりをする為、職員も利用者と一緒にメニューを食べてはいかがでしょうか。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている	連携施設の 栄養士の立てた献立を基本としバランスの取れた食事 を提供。食事量・水分量を毎日チェックし支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科往診と協力 して実行している。		

43	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>24時間の排泄パターンを把握し実行している。</p>		
44	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>水分量のチェックや牛乳を提供したり散歩や運動するよう取り組んでいる。</p>		
45	<p>17</p> <p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>入浴日を基本とするが、体調や希望に応じて他の階の入浴日に対応している。</p>	<p>入浴日が決められていますが、利用者の体調や希望に応じ、変更も可能で、ゆっくりと一人一人の気持ちに合わせた入浴を支援しています。</p>	
46	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>本人の希望に沿ったかたちで休息していただいている。</p>		
47	<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>Dr・看護師・薬剤師と連携し支援している。</p>		
48	<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>本人の能力に応じて家事を手伝っていただいている。</p>		

49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ストレスが溜まらないよう本人の希望に沿って外出を支援している。	週3回、近くの公園への散歩や近隣スーパーへの買い物等外出の機会があります。また、利用者の希望にあわせた海へのドライブやお墓参りなど外出支援がされています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が希望する場合、家族様承諾も得て支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話の支援・年賀状・手紙の支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感や季節感を採り入れて居心地よく過ごしていただいている。	窓が大きく開放的で、明るい共用空間になっています。共用空間では利用者が洗濯物をたたんだり、和気あいあいと共同生活を送っています。各階に犬や熱帯魚が飼育され利用者が大切にしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングではソファ、バルコニーにベンチ1階に対話室を設け支援している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様にお願いして使い慣れた物を持参して頂いている。	寝具やタンス、仏壇などそれぞれの利用者の馴染みの物が多くあり、居心地の良い居室になっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には名札、目印になるものなど工夫して分かりやすくしている。行事やレクなどの日程はポスターなどでお知らせしている。		

V アウトカム項目

56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	②	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	②	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	①	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	①	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	②	①ほぼ全ての利用者と ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	②	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない

65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	③	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き生きと働けている	①	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	②	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない